

エコアクション21

2024年度

環境経営レポート



対象期間：

2024年6月～2025年5月

源平造園建設株式会社



認証番号0004735

2025年10月20日発行

目次

	(頁)
1. 環境経営方針	1
2. 組織の概要	2～3
3. 中期の環境経営目標	4
4. 環境経営目標とその実績	4～11
5. 環境経営計画	12
6. 環境経営計画実施状況	13
7. 環境経営計画の取組結果の評価 次年度の取組内容	14～15
8. 環境関連の法規への違反・訴訟等の有無	16
9. 環境上の緊急事態への対応策及び準備	17
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示.....	18

1. 環境経営方針

〈 基本理念 〉

当社は造園工事・樹木維持・土木建設及び関連する業務全般において、持続可能な開発目標（SDGs）を意識して、環境負荷の削減に配慮した企業活動を展開する。

〈 行動指針 〉

1. 深刻化する地球温暖化や地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題としての認識に立ち、事業活動を通じて「地球環境への調和」を揚げ、全従業員が事業活動のあらゆる面が、地球環境に負荷を与えていることに配慮して行動する。
2. 当社の事業活動に係わる環境関連の法規及びその他、要求事項を遵守する。
3. 当社の事業活動に係わる環境影響のうちSDGsを意識して、以下の項目を環境経営管理重点目標として取り組む。
 - ① 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物の排出量の削減並びに再使用の推進
 - ③ 水の使用量削減
 - ④ 資材のグリーン購入に努める
 - ⑤ 造園から出た切枝等はチップ・バーク堆肥等の再生利用に努める
 - ⑥ 地域社会への貢献
4. 環境教育・環境保全活動の推進を図り、全従業員に環境保全の意識を周知するとともに社内外に公表する。
5. 上記環境経営を継続的に改善する。

制定	2009年	8月	1日
改訂	2024年	6月	1日
	源平造園建設株式会社		
	代表取締役 源 平 剛 士		

2. 組織の概要

事業所及び代表者

源平造園建設株式会社
代表取締役 源 平 剛 士

所 在 地

静岡県静岡市清水区庵原町118番地の9

資材置場

静岡県静岡市清水区庵原町216-1

環境管理の責任者及び担当者

責任者 取締役 源 平 知 子
事務局 源 平 知 子
連絡先 TEL : 054-366-5525
FAX : 054-365-1251
E-mail : genpeizouen1@ny.tokai.or.jp

事業の内容

造園工事 樹木維持管理 一般土木工事業

創 業 昭和 5年 4月
法人設立 昭和 42年 9月

対象範囲

全組織・全活動

事業の規模

資本金 3,500万円
従業員 9名
売上高 14,206万円 (2024年度:6月～翌年5月)

事業年度

6 月 1 日 ～ 5 月 31 日

建設業の許可

静岡県知事許可 (般一2)第 20110 号
土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、舗装工事業、造園工事業
許可の有効期間(令和3年1月4日～令和8年1月3日)

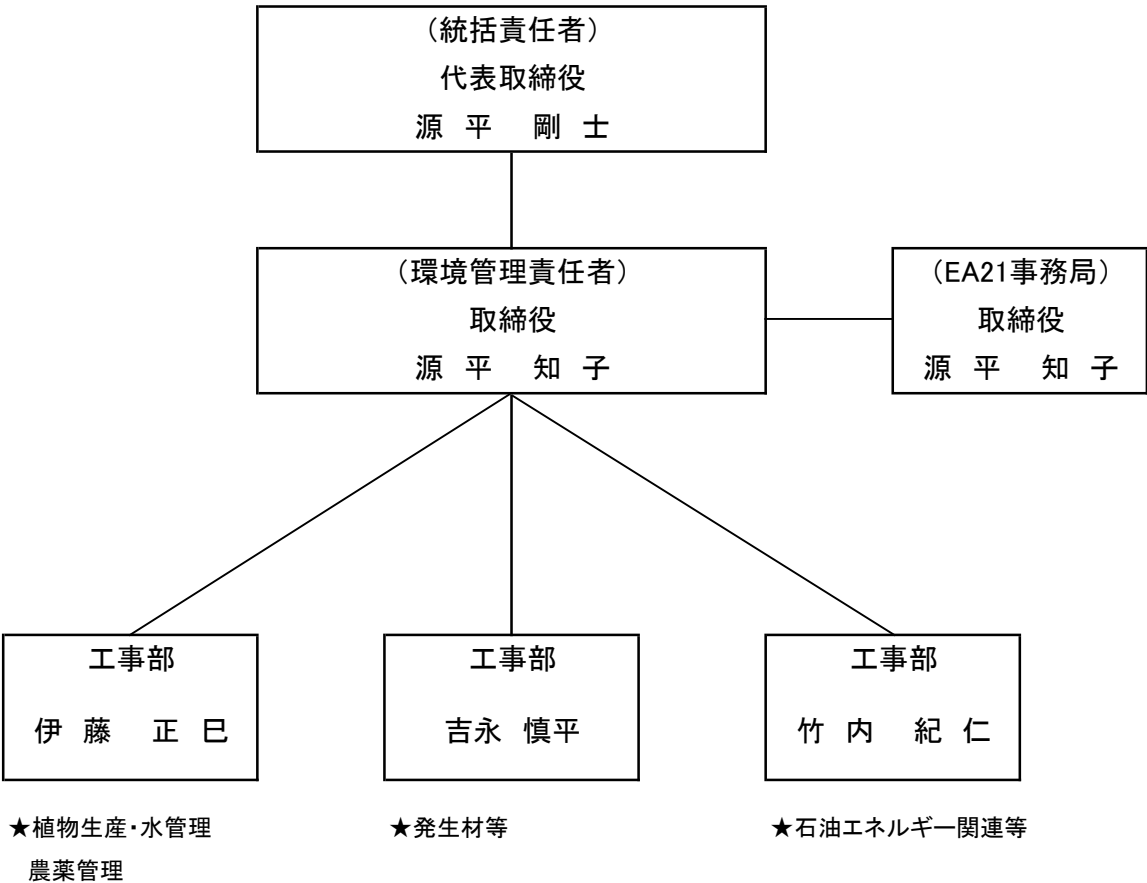
産業廃棄物収集運搬業許可

静岡県産業廃棄物収集運搬業 許可番号 第 02201122426 号
収集運搬 (積替え及び保管行為を除く)(自社工事運搬分のみ)
許可の有効期間(令和4年11月13日～令和9年11月12日)

静岡県知事屋外広告業登録

登録番号 第2020号
許可の有効期間(令和3年11月22日～令和8年11月21日)

組織図及び実施体制



	役割・責任・権限
代表者	環境管理責任者を任命、環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画を承認、代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認 経営における課題とチャンスの明確化
環境 管理 責任者	環境経営システムの構築・実施・管理・環境法規等の取りまとめ表を承認 環境経営計画を承認・環境経営の取組結果を代表者へ報告 外部コミュニケーションの窓口
EA21 事務局	環境経営システムの実施・環境経営方針の周知・従業員に対する教育訓練の実施等 全体計画の立案・文書の作成・管理 環境経営レポートの作成等 環境への負荷の自己チェック・取組の自己チェック
従業員 全員	環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められた事を守り、環境経営への積極的に参加、取組む

3. 中期の環境経営目標設定

2020年度の環境負荷の実績把握を行い、2020年度を基準値として3年間の中期環境経営目標を設定する。
 なお、その年度の事業受注量によって実績も左右されるため、売上高百万円あたりの原単位を算出して
 前年度の原単位より年間約1%削減を目標として設定する。(原単位＝実績値÷売上高/百万円)
 また、車両の年間平均燃費は実績を把握して維持管理していく。

項 目		単 位	2020年度実績	基準原単位	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
			2020.6～2021.5		2024.6～2024.5	2024.6～2025.5	2024.6～2025.5
売上高		百万円	137				
			実績値	基準値	基準値-2%	基準値-3%	基準値-4%
二酸化炭素排出量	電力・燃料	kg-co ₂ /年	24,044.7	175.51	172.00	170.24	168.49
電気使用量	従量電力使用量	kWh/年	5,791	42.27	41.42	41.00	40.58
	低圧電力使用量	kWh/年	1,089	7.95	7.79	7.71	7.63
燃料使用量	灯油	L/年	249	1.82	1.78	1.76	1.74
	ガソリン	L/年	3,549	25.90	25.39	25.13	24.87
	軽油	L/年	4,655	33.98	33.30	32.96	32.62
廃棄物搬出量	一般	t/年	102.47	0.75	0.73	0.73	0.72
	産業	t/年	350.40	2.56	2.51	2.48	2.46
水使用量(排水量)		m ³ /年	109	0.79562	0.77971	0.77175	0.76380
切枝等のリサイクル率		%	100		100	100	100
車両(ガソリン車)の年間平均燃費		km/L	13.72		13.75	13.76	13.77
車両(ディーゼル車)の年間平均燃費		km/L	6.46		6.47	6.48	6.49

4. 環境経営目標とその実績

2020年度の実績値を基準として、2024年度の目標と計画及び実績についての評価を行う。
 各年度の実績値に対する売上高百万円あたりの原単位は下図のとおりである。

項 目		単 位	2020年度(基準)		2024年度	
			2020.6～2021.5		2024.6～2025.5	
売上高		百万円	137		142	
			実績値	原単位	実績値	原単位
二酸化炭素排出量	電力・燃料	kg-co ₂ /年	24,044.7	175.51	20,959.9	147.60
電気使用量	従量電力使用量	kWh/年	5,791	42.27	5,230	36.83
	低圧電力使用量	kWh/年	1,089	7.95	1,255	8.84
燃料使用量	灯油	L/年	249	1.82	224	1.58
	ガソリン	L/年	3,549	25.90	2,895	20.39
	軽油	L/年	4,655	33.98	4,186	29.48
廃棄物搬出量	一般	t/年	102.47	0.75	103.72	0.73042
	産業	t/年	350.40	2.56	257.941	1.81649
水使用量(排水量)		m ³ /年	109	0.79562	109	0.76761
切枝等のリサイクル率		%	100	100	100	100
車両(ガソリン車)の年間平均燃費		L/km	13.72		13.75	
車両(ディーゼル車)の年間平均燃費		L/km	6.46		6.47	

※二酸化炭素排出係数＝0.445kg-CO₂/kWh (2019年度の調整後 中部電力)(2017年度版 建設業向けガイドライン)

※ガソリン車及びディーゼル車の燃費向上の数値は原単位ではなく、年間の平均燃費とする。

2024年度の環境経営目標(基準値の-2%)に対する実績は下図のとおりである。

項 目	基準値 (2022年度の 百万円当りの 原単位) 2022.6～2023.5	2024年度			備考	SDGs 貢献分野	
		目標値	実績値	評価	(目標に対する評価)		
		2024.6～2025.5					
二酸化炭素排出量※ の削減(電力・燃料等)	175.51kg-CO2	172.00 kg-CO2 (基準値 -2%)	147.60 kg-CO2 -14.19%	○	今年度は目標達成出来ている。		
電力の削減 (照明等)	42.27kWh	41.42 kWh (基準値 -2%)	36.83 kWh -11.08%	○	今年度は目標達成出来ている。		
電力の削減 (エアコン)	7.95kWh	7.79 kWh (基準値 -2%)	8.84 kWh +13.48%	×	今年度は目標達成出来なかった。		
灯油使用量の削減	1.82L	1.78L (基準値 -2%)	1.58L -11.24%	○	今年度は目標達成出来なかった。		
ガソリン使用量の削減	25.90L	25.39L (基準値 -2%)	20.39L -19.69%	○	今年度は目標達成出来ている。		
軽油使用量の削減	33.98L	33.30L (基準値 -2%)	29.48L -11.47%	○	今年度は目標達成出来ている。		
産業廃棄物搬出量 削減	2.56t	現場からの混合廃棄物			分別収集して廃棄物の削減を目指す		
一般廃棄物排出量 削減	0.75t	事務所内からのゴミと、民間の剪定 切枝等			目標は立てず、維持管理する		
水使用量削減 (事務所)	0.7956㎡	0.77971 (基準値 -2%)	0.76761 -1.55%	○	今年度は目標達成出来ている。		
切枝等のリサイクル率	100%	100%	100%	○	目標を達成出来ている。		
ガソリン車の燃費向上	13.72km/L	13.75km/L	13.58km/L	×	今年度は目標達成出来なかった。		
ディーゼル車の燃費向上	6.46km/L	6.47km/L	6.54km/L	○	今年度は目標達成出来ている。		

〈評 価〉

今年度は概ね目標を達成出来ているが、エアコンの電力削減とガソリン車の燃費の向上は目標達成出来なかった。エアコンは9月に新しい機種に更新したため、来年度以降の目標達成に期待したい。

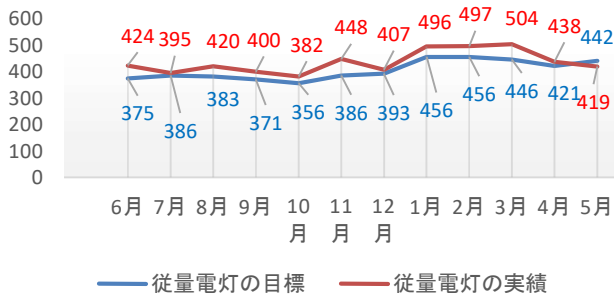
2024年度の実績を項目ごとに比較してみた。

目標値を前年度より-1%に設定して、月毎の目標と実績を比較してみた。

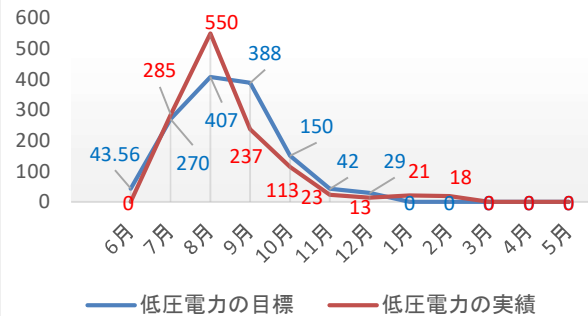
2024年度 電気使用量(単位:kWh)

電気使用量(kwh)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
従量電灯の目標	375	386	383	371	356	386	393	456	456	446	421	442	4,871
従量電灯の実績	424	395	420	400	382	448	407	496	497	504	438	419	5,230
低圧電力の目標	43.56	270	407	388	150	42	29	0	0	0	0	0	1,330
低圧電力の実績	0	285	550	237	113	23	13	21	18	0	0	0	1,260

2024年度従量電灯使用量
(kWh)



2024年度低圧電力(エアコン)使用量
(kWh)



従量電灯の使用量の推移は年間を通して目標を上回ってしまった。

低圧電力(エアコン)の使用量は8月に長年使用してきたエアコンが故障して修理したため、目標を大きく上回ってしまったが、9月に効率の良いエアコンに更新したので、今後の電力削減に期待したい。

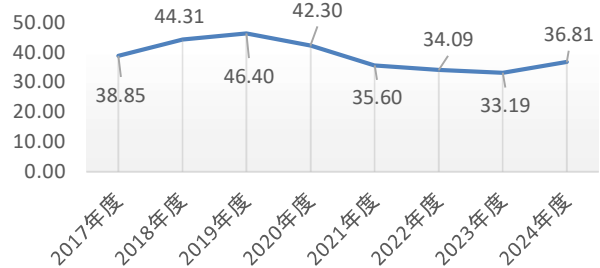
2017年度からの過去8年間の各年度毎の使用量と原単位の推移は以下の通りである。

①従量電灯の使用量と原単位の推移

従量電灯使用量推移(kwh)



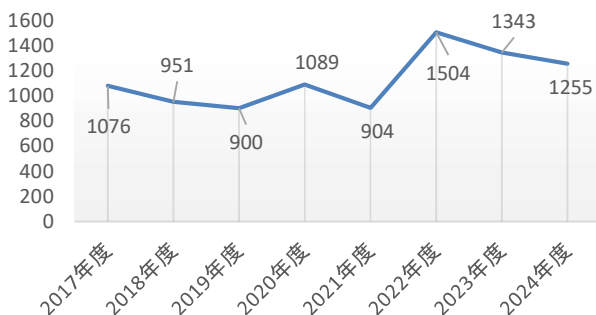
原単位従量電灯推移【kWh／売上高(百万円)】



従量電灯使用量はわずかに減少しながら推移しているが、売上高(百万円単位)当たりの原単位で見ると2018年度から2020年度の間が高くなっている。ただし、2020年度以降は減少勾配で推移している。

②低圧電力の使用量と原単位の推移

低圧電力使用量推移(kwh)



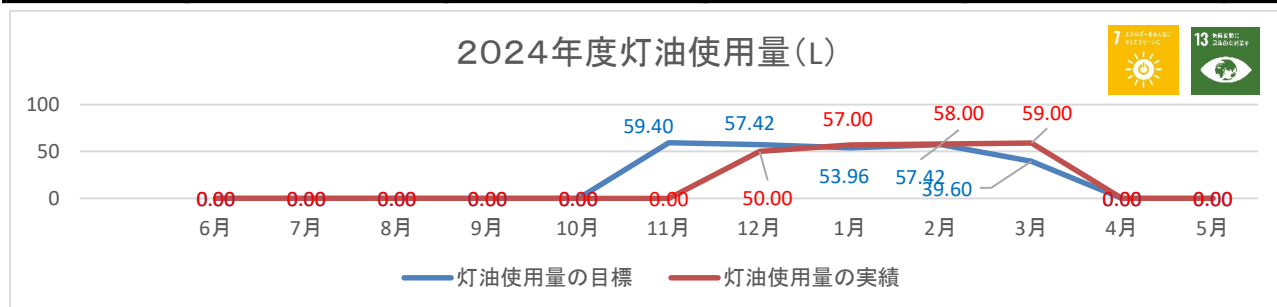
原単位低圧電力推移【kWh／売上高(百万円)】



低圧電力の使用量と売上高当たりの原単位は、ほぼ同ような曲線を描いて推移している。今まで古いエアコンを使用していたため、年々使用電力が増えていたが、9月に更新したエアコンで効率が良くなることを期待したい。

2024年度 灯油使用量(単位:L)

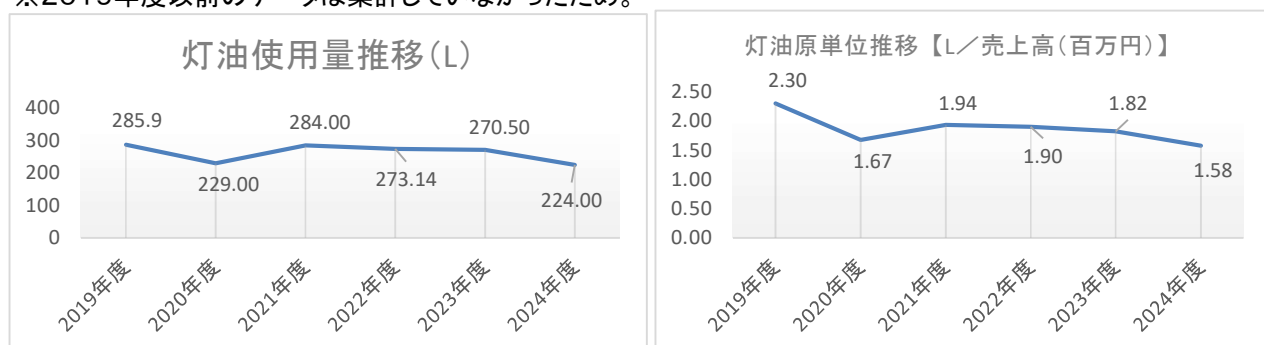
灯油使用量(L)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
灯油使用量の目標	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	59.40	57.42	53.96	57.42	39.60	0.00	0.00	268
灯油使用量の実績	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	50.00	57.00	58.00	59.00	0.00	0.00	224



灯油の使用量は寒さのピークが遅れた為、12月までは目標値を下回っているが、1月以降は若干目標を上回ってしまった。トータルでは年間の灯油使用量は減少した。

2019年度からの過去6年間※の各年度毎の灯油使用量と原単位の推移は以下の通りである。

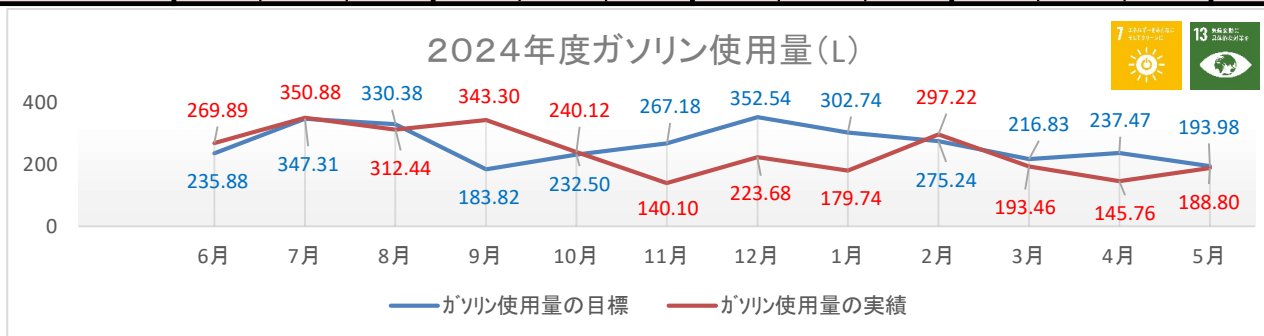
※2019年度以前のデータは集計していなかったため。



灯油の使用量と売上高当たりの原単位は、ほぼ同じような曲線を描いて推移している。

2024年度 ガソリン使用量(単位:L)

ガソリン使用量(L)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
ガソリン使用量の目標	235.88	347.31	330.38	183.82	232.50	267.18	352.54	302.74	275.24	216.83	237.47	193.98	3,176
ガソリン使用量の実績	269.89	350.88	312.44	343.30	240.12	140.10	223.68	179.74	297.22	193.46	145.76	188.80	2,885



ガソリンの使用量は作業が多い6月から10月、2月に目標値を上回ってしまったが、11月～1月は節約出来た。トータルでは年間のガソリン使用量を削減出来た。

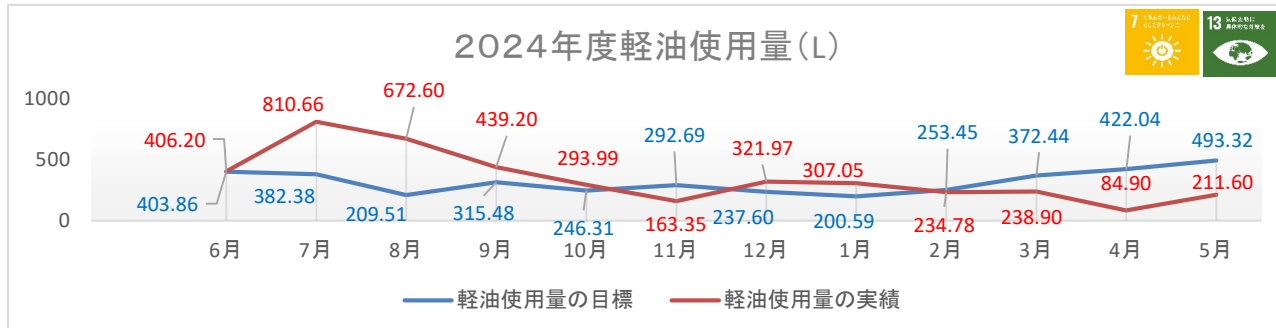
2017年度からの過去8年間の各年度毎のガソリン使用量と原単位の推移は以下の通りである。



ガソリンの使用量と売上高当たりの原単位は、ほぼ同じような曲線を描いて推移しているが、使用量は2020年度をピークに減少傾向である。

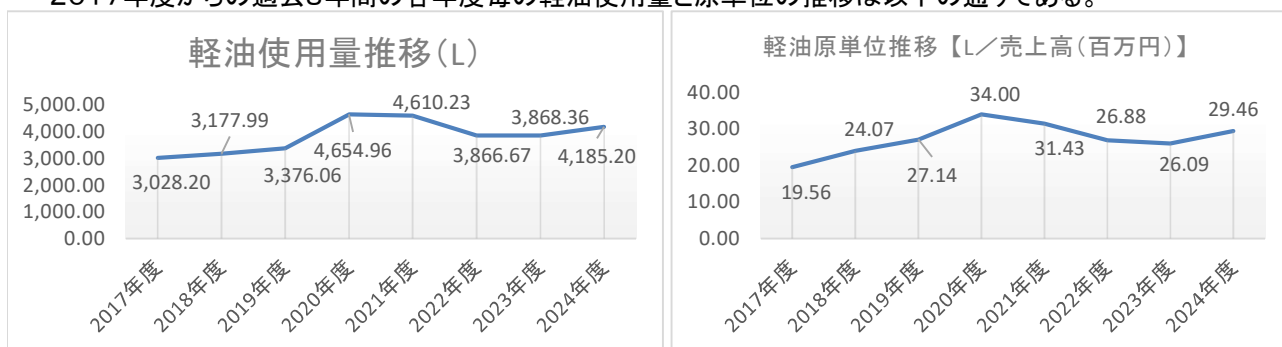
2024年度 軽油使用量(単位:L)

軽油使用量(L)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
軽油使用量の目標	403.86	382.38	209.51	315.48	246.31	292.69	237.60	200.59	253.45	372.44	422.04	493.32	3,830
軽油使用量の実績	406.20	810.66	672.60	439.20	293.99	163.35	321.97	307.05	234.78	238.90	84.90	211.60	4,185



軽油の使用量は7月から10月までと、12月、1月は目標を大きく上回っているが、それ以外の月は下回っている。トータルでは年間の軽油使用量は目標を若干上回ってしまった。

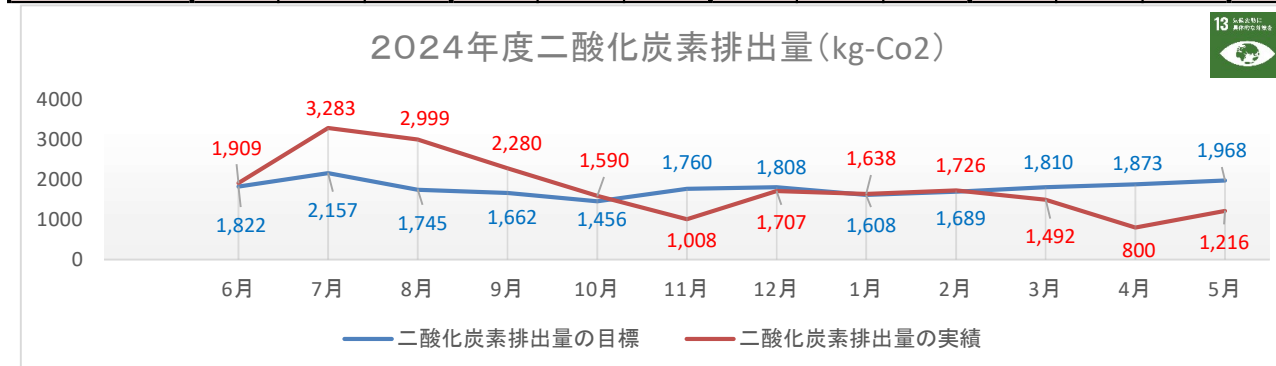
2017年度からの過去8年間の各年度毎の軽油使用量と原単位の推移は以下の通りである。



軽油の使用量と売上高当たりの原単位も、ほぼ同じような曲線を描いて推移しているが、2020年度がピークでここ数年は減少傾向であったが、2023年度、2024年度とまた増えてきている。

2024年度 二酸化炭素排出量(単位:kg-CO₂)

二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
二酸化炭素排出量の目標	1,822	2,157	1,745	1,662	1,456	1,760	1,808	1,608	1,689	1,810	1,873	1,968	21,358
二酸化炭素排出量の実績	1,909	3,283	2,999	2,280	1,590	1,008	1,707	1,638	1,726	1,492	800	1,216	21,648

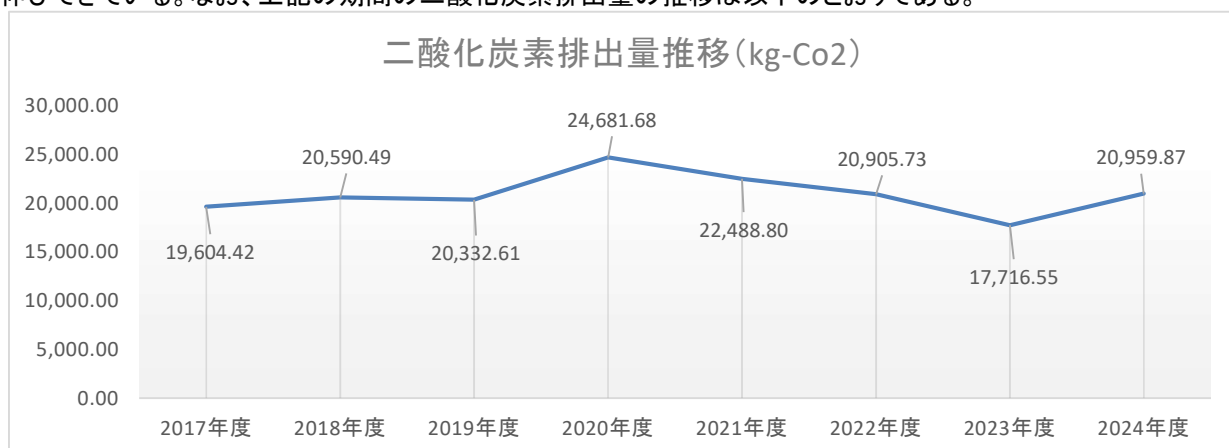


二酸化炭素排出量は6月から10月までの暑い時期に目標値を上回っているが、11月以降は概ね目標値を下回っている。

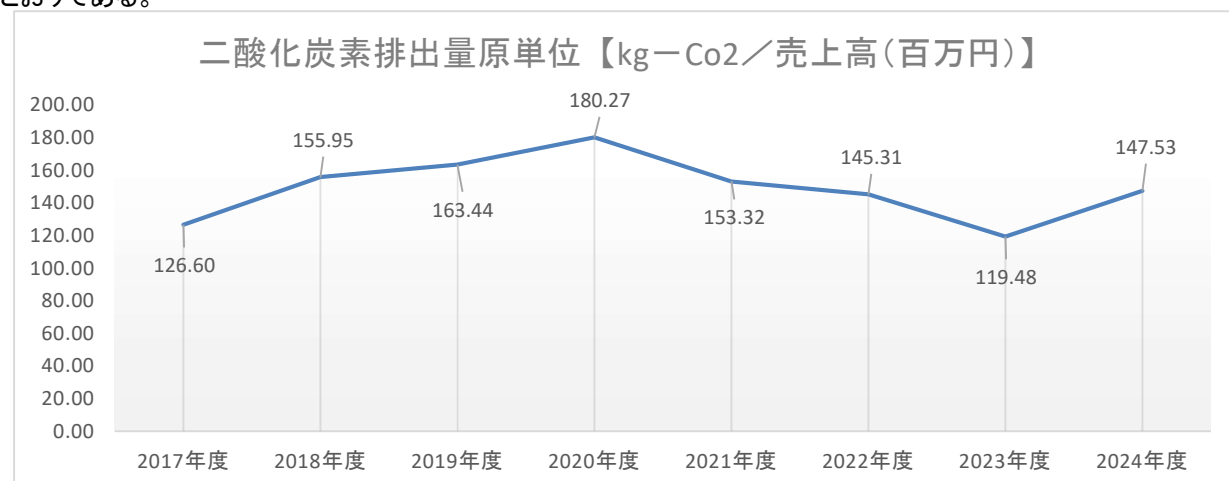
2017年度から8年間の売上高の推移をグラフ化してみた。



売上高は2017年度がピークで、やや減少傾向にあったが、2020年度からは横ばいながら、若干売上が伸びてきている。なお、上記の期間の二酸化炭素排出量の推移は以下のとおりである。



また、上記の数値から割り出した原単位(二酸化炭素排出量÷売上高(百万円単位))の推移は以下のとおりである。



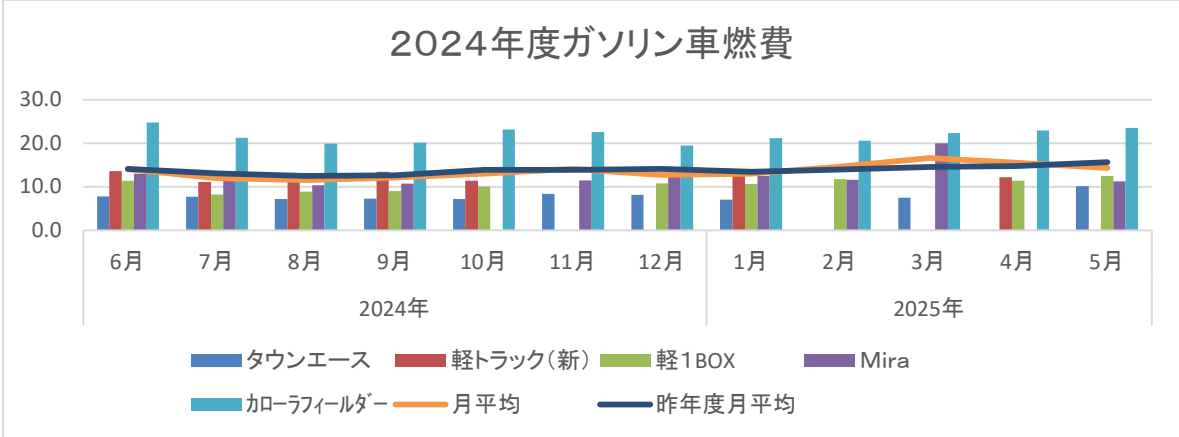
上記のとおり、二酸化炭素排出量は2020年度がピークで、2023年度まで減少傾向で推移していたが2024年度は売上が低い割に増加してしまった。原単位での推移も、概ね同じような曲線で推移している。ただし、2020年度より減少傾向なので、この調子を維持していきたい。

③社用車両の燃費管理を行い、2024年度の各車両、月ごとの燃費の把握を行った。下記のグラフの通り、ガソリン車の月平均燃費はフラットで安定しているが、ディーゼル車の月平均燃費は月によってばらつきがある。車種によって使用頻度にばらつきがあるので一概には言えないが、熱中症対策で夏の暑い時期の休憩時等にエアコンの効いた車内で休憩したりする場合もあるので燃費が悪化することもあり、やむを得ないが、できる限りエコドライブを徹底したい。

なお、月平均燃費は、ガソリン車もディーゼル車もほぼ昨年並みで昨年度よりやや下がっている。

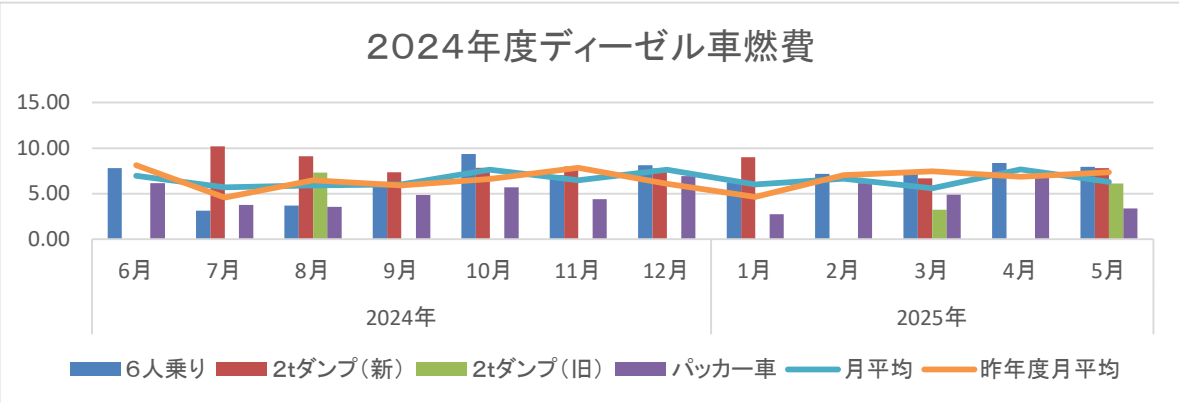
※2024年度(2024年6月～2025年5月)燃費
ガソリン車(単位:km/L)

車種	2024年							2025年				
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
タウンエース	7.8	7.7	7.2	7.3	7.2	8.4	8.2	7.1		7.5		10.1
軽トラック(新)	13.6	11.1	11.6	13.5	11.4			13.4			12.2	
軽1BOX	11.4	8.3	8.9	9.0	10.1		10.8	10.7	11.8		11.4	12.5
Mira	13.0	11.4	10.3	10.8		11.5	12.3	12.5	11.6	20.0		11.3
カーラフィールダー	24.8	21.3	19.9	20.2	23.2	22.6	19.5	21.2	20.6	22.4	22.9	23.5
月平均	14.1	12.0	11.6	12.1	13.0	14.1	12.7	13.0	14.7	16.6	15.5	14.3
昨年度月平均	14.2	13.1	12.5	12.6	13.9	13.9	14.2	13.4	13.9	14.6	14.8	15.7



ディーゼル車(単位:km/L)

車種	2024年							2025年				
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
6人乗り	7.78	3.14	3.68	5.83	9.32	7.02	8.14	6.24	7.17	7.56	8.37	7.95
2tダンプ(新)		10.18	9.09	7.34	7.82	7.98	7.75	8.99		6.69		7.80
2tダンプ(旧)			7.32							3.26		6.10
パッカー車	6.17	3.76	3.55	4.85	5.69	4.41	6.91	2.76	6.16	4.88	6.97	3.38
月平均	6.98	5.69	5.91	6.01	7.61	6.47	7.60	6.00	6.67	5.60	7.67	6.31
昨年度月平均	8.11	4.56	6.48	5.89	6.61	7.87	6.08	4.64	7.02	7.45	6.87	7.33



※給油していない月は燃費計算出来ないため、斜線部の燃費は計上せず、月平均燃費は給油している車両の平均値とする。

切枝等については、量的・工事ごとは難しいため排出量の把握のみとする。

当社の業務上発生した剪定枝葉、草、伐採材等は『清水港木材産業(協)エコリサイクルチーム』『(有)エコトーカイ』『小泉チップ工業(有)』等のリサイクル施設へ100%搬入し、破砕されてバーク堆肥等の農業用資材及び畜産用敷藁、木質ボード用チップや燃料チップ等の原料として再利用される。

なお、公共工事の特性上、現場で発生した剪定枝葉、草、伐採材等は産業廃棄物として扱う為建設発生木材として排出量を計上するが、上記リサイクル施設で100%リサイクルを行う。民間から排出される剪定枝葉等は清水港木材産業(協)等で一般廃棄物として処理する。



2022年度～2024年度の切枝等排出量実績(単位:kg)

リサイクル施設名	2022年度	2023年度	2024年度	3年間合計
	2022・6～2023・5	2023・6～2024・5	2024・6～2025・5	
一般廃棄物として処理				
清水港木材産業(協) エコリサイクルチーム	131,080	113,700	103,670	348,450
(有)まるいチップ	0	26,440	0	26,440
産業廃棄物として処理(マニフェストにより管理)				
(有)エコトーカイ	2,770	990	1,350	5,110
静岡チップ工業(株)	870	330	0	1,200
小泉チップ工業(有)	0	156,636	65,235	221,871
小　　計	134,720	298,096	170,255	603,071
年間発生量	134,720	298,096	170,255	603,071
リサイクル率	100%	100%	100%	100%

☆ 廃棄物量・切枝等排出量は、その年度工事内容によって大きく変わるが、リサイクルを推進し、環境保全のために貢献する。

5. 環境経営計画の取組結果の評価

2024年6月～2025年5月

環境経営計画	評価	担当者	SDGs
①二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減			
☆ 全車両のエコ・ドライブの周知	○	運転者	7
・ 不必要なアイドリングの禁止	○	運転者	11
・ 急発進・急加速の禁止	○	運転者	13
・ エンジンブレーキの積極使用	○	運転者	15
・ エアコンを控えめ	○	運転者	
・ 早めにシフトアップ	○	運転者	
・ タイヤの空気圧をチェック	○	運転者	
・ 使用資機材及び車両の整備・点検	○	運転者	
☆ エコ整備	○	運転者	
・ 省エネオイル エンジンクリーニング 添加剤の使用	○	運転者	
☆ エアコンの設定温度の調節	○	全員	
☆ 不要照明の消灯	○	全員	
☆ 不在時PC電源OFF	○	全員	
②水使用量の削減			
・ 薬剤散布時の雨水の利用 樹木等の散水の雨水の利用	△	全員	6
・ 洗車時の節水	○	全員	14
・ 節水の呼びかけ	○	全員	
③一般廃棄物排出量の削減			
・ 枝、葉、伐採材、根株等の発生材はリサイクル施設へ搬入し、チップ、マルチング材、堆肥等として再利用	○	全員	12
・ 建設発生土の植木土へのリサイクル	△	全員	13
・ コピー用紙の両面使用	○	全員	15
・ FAX受信のパソコン内に止め置きなど、ペーパーレスに努める	○	全員	
・ 帳票見直しによるミスプリント等、印刷物の削減	○	全員	
④工事現場での3S の徹底、産業廃棄物の削減を呼びかけながら、再使用、分別回収			
・ 混合廃棄物の分別回収を徹底する	△	全員	11
・ 薬剤散布時の周知連絡、短時間での作業の心掛け	○	全員	13
・ 現場行動指針の提示	○	全員	
⑤農薬の適正保管			
・ 保管量を記録する	○	業務担当者	14
・ SDSの管理を行う	○	業務担当者	15
⑥グリーン購入の推奨			
・ 備品・建設機械等の新規購入に於いてグリーン購入	△	業務担当者	12
・ 公共工事において、資材のリサイクル	○	業務担当者	
⑦社会貢献、地域貢献			
・ 地域の環境活動への積極参加	○	全員	11
・ 環境緑化事業の促進	△	全員	8
・ 農業高校生インターンシップの受け入れ	○	全員	

責任者：専務取締役

※評価 : ○＝達成できた △＝まだまだ取組が必要 ×＝達成出来なかった

6. 環境経営計画実施状況

①地域ボランティアに参加

(1) 小さな親切運動に参加

(2) 麻機遊水地クリーン作戦に参加



(3) 工事現場周辺の道路清掃等を実施



②地域のインターンシップ受け入れ等 静岡農業高校生の現場実習



7. 次年度の取組内容

取組内容

- ① 不必要なアイドリング・急発進・急加速の低減が自発的に出来てきたが、今後は全体会議を通じて更にエコドライブを徹底したい
- ② エアコンの温度調節・不在時の電源OFFに努めたい
- ③ 今後とも省電力型の電化製品を積極的に導入するよう努めたい
- ④ 今後は、雨水をもっと積極的に利用するよう努めたい
- ⑤ 一般廃棄物搬出についてはリサイクル処理場へ その他分別収集を徹底する
樹木の剪定・伐採での枝、葉等は業者を通じてリサイクルをしている
- ⑥ 混合廃棄物搬出については、事業の規模により増減するのはやむを得ないが、分別収集を徹底して、出来る限り排出量の削減に努めたい
- ⑦ 農薬の適正保管については、農薬保管台帳で管理する
- ⑧ コピー用紙の裏面再利用等、無駄にしないことの徹底
- ⑨ 書類印刷時に印刷設定の確認を徹底し、ミスプリントの削減を徹底
- ⑩ 地域ボランティアに積極的に参加する
- ⑪ グリーン購入については、備品の新規購入時、積極的にグリーン購入をするよう推進したい
- ⑫ 地域の高校生等のインターンシップを受け入れる

外部からの苦情結果の受付

- ① 外部からの苦情等はなかった
- ② 仕事上の消毒など機械の騒音等事前に、近隣にお知らせをして、時間厳守にて行った

2025年度環境経営計画

項目	活動項目	活動方法
二酸化炭素 排出の削減	・ 全車両のエコドライブの周知	不必要なアイドリング・急発進・急加速など
	・ アイドリング・急発進・急加速の低減	周知の強化
	・ エコ整備	タイヤの空気圧・省エネオイル・エンジンクリーニング等の
	・ エアコンの温度調節	エコ整備の点検
	・ 不要な照明の消灯	スイッチオフによる待機電力の削減の徹底
	・ 不在時PC電源OFF	省電力型の電化製品の導入促進
		冷暖房の設定温度の徹底と、不在時や帰宅時の電源OFFの徹底 現場での暖房使用の節約
水使用量の削減	・ 薬剤散布・植木等の散水の雨水の利用 ・ 洗車時の節水 ・ 節水の呼びかけ	天候に左右されるが雨水の利用徹底 継続 社員全員への周知徹底
一般廃棄物 排出量の削減	・ 一般廃棄物搬出はリサイクル施設	リサイクル・再利用維持、継続
	・ 切枝等の再利用	無駄しないことの徹底 継続
	・ コピー用紙の両面使用	
	・ FAX受信のペーパーレス	
	・ 印刷物の削減	
混合廃棄物の削減	・ 分別搬出の徹底 ・ 事業所一般廃棄物袋の購入と分別	資材置き場での分別の徹底
グリーン購入の奨励	・ 備品等の新規購入に於いてグリーン購入を検討	継続
	・ 公共工事について資材のリサイクル	
農薬保管量の記録 と削減	・ 農薬保管台帳で在庫を把握 ・ 適正な防除による農薬使用の削減	継続
その他	・ 工事現場での3Sの徹底	継続
	・ 地域のボランティアへの積極的参加	
	・ グリーン緑化事業の促進	
	・ 地域のインターンシップ受け入れ	

8. 環境関連の法規への違反・訴訟等の有無

当社に関連する法的義務を受ける主な環境関係法規は次の通りである。

2025/4/30

法規名	条項	適用内容又は規制基準値	備考	確認者	遵守状況
環境基本法	第8条	一般的な自主努力義務、行政への協力		専務取締役	○
廃棄物処理法 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律)	第12条第5項	産業廃棄物搬出事業所との委託契約	契約書の締結	専務取締役	○
	第12条の3第1項	マニフェストの交付、	D票・E票の返却	専務取締役	○
	第12条の3第2項	マニフェストの保管	A票、5年間	専務取締役	○
	第12条の3第3項	マニフェストの期間内返却	B1票の90日以内返却等	専務取締役	○
	第12条の3第6項	マニフェストの保管	B2、D、E票、5年間	専務取締役	○
		不法投棄禁止	不法投棄を行わない	専務取締役	○
	第12条第2項	産業廃棄物の適正保管(悪臭及び飛散防止)	車両荷台にシートを被せる等	専務取締役	○
		〃 (保管場所への提示)	60cm×60cm 以上表示	専務取締役	○
	第12条の3第6項	マニフェスト交付状況の市長への報告	6月30日までに提出	専務取締役	○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第10条	実地確認の実施と記録保存管理	処分委託先の年1回の実地確認と記録作成5年間保存	専務取締役	○
静岡市一般廃棄物処理の適正な処理に関する条例	第6条の2第6項	一般廃棄物の分別搬出		専務取締役	○
騒音規制法	第14条・15条	特定施設工事作業管理	作業管理・時間	専務取締役	○
振動規制法	第14条・15条	特定施設工事作業管理	作業管理・時間	専務取締役	○
建設リサイクル法 (元請の場合)	第10条	建設副産物リサイクル計画書	請負契約書交付(工事施工計画書)	専務取締役	○
	第18条	再資源化完了報告書	実施(完了)報告	専務取締役	○
自動車リサイクル法	第73条	引取業者への引渡し	リサイクル料金の支払	専務取締役	○
PCリサイクル法		OA機器の収集	パソコン・モニター 他	専務取締役	○
フロン排出抑制法	第16条	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象	業務用エアコン簡易点検表	専務取締役	○
		自身での「簡易点検(3ヶ月に1回以上)」実施			
		簡易点検表は、機器廃棄後3年間の保管			
グリーン購入法		環境負荷の低減に努めている製品やサービスを優先的に購入	備品・事務用品等 公共工事	専務取締役	○
農薬取締法		農薬の適正、保管管理、使用	農薬類	専務取締役	○
労働安全衛生法		定期健康診断	毎年実施	専務取締役	○
建設業法		工事業者登録と更新及び技術者登録	登録と5年ごとの更新及び資格者登録	専務取締役	○
建築基準法・道路法・上下水道法・河川法		工事基準の遵守、各種申請手続きの適正処理		専務取締役	○
自然環境・緑化保全法		自然環境の保護		専務取締役	○

上記関連法規の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟はありませんでした。

9. 環境上の緊急事態への対応及び準備

○想定される緊急事態

高木剪定作業時の転落事故

○緊急事態の原因

安全帯の着用不備による転落

腐朽枝の折損による転落

脚立、はしごの転倒により転落

高所作業車が転倒

高所作業車から樹木に乗り移ろうとして転落

○対応手順

第一に転落した被災者の容態確認(意識があるか、怪我の程度)

容態によっては被災者を移動出来ないので、街路樹等の場合は周囲の安全確保

救急車の要請

高所作業車が転倒した場合には、周囲の交通等の安全確保及び被災状況の確認

クレーン車等の復旧作業の手配

○予防手順

安全帯(フルハーネス)の着用の徹底

樹木に登る前に腐朽枝や幹の不自然な揺れが無い確認

脚立、はしご等の固定、脚立設置箇所の地面の硬さ等の確認

高所作業車のアウトリガーの張り出し、接地の確認

高所作業車から樹木に乗り移って作業しない

○訓練記録

2ヶ月に1回、緊急事態の対応の安全訓練を行った。

安全訓練状況

訓練日 : 2024年9月 1日



想定内容 : 高木剪定作業時の転落事故

訓練内容 : 高木剪定作業時の転落事故を想定して、原因、対応策、役割分担等について話し合い、その内容の適否を確認した。

フルハーネスの使用方法、点検等の確認をした。

訓練結果 : 転落事故に対する作業員の安全意識を高めることが出来た。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成 2025年10月20日

今期 取組結果	見直し指示内容		取組結果
	①	実績に照らして環境経営目標・計画を確認	効果的な環境経営につながるような取組内容を更に検討していく
	②		

見直しに 必要な情報	項目		確認	必要に応じて評価・コメント記載
	①	環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/>	問題なし
	②	環境経営目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組む
	③	環境経営計画及び取組実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組む
	④	外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	問題なし
	⑤	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	問題なし
	⑥	問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	問題なし
	⑦	その他	<input checked="" type="checkbox"/>	問題なし
今期全体評価・コメント・見直し指示	代表者による見直し指示	項目	見直しの必要	『有』の場合の指示事項等
		① 環境経営方針	無	
		② 環境経営目標・計画	無	
		③ 環境経営計画	無	
		④ 環境経営に関する組織	無	
		⑤ その他システム要素	無	
		⑥ その他(外部への対応)	無	
	全体評価	目標を定めて実行しているが、当社の環境負荷は受注状況により異なることも多い。 2024年度の環境負荷は概ね目標を達成出来ているので、次年度以降も目標を達成出来るように環境活動を継続していきたい。 混合廃棄物の分別回収も徹底して、排出量の削減に努めていきたい。 環境経営方針、目標、実施体制をこのまま継続して改善に努めていきたい。		